

2023年12月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 12月えんだより

### 12月の聖句「ひとりの男の子が私たちに与えられた。」

イザヤ書9章5節

もう30年余り前のことですが、オーストラリアのショッピング街で、サーフィンに乗った「サンタクロース」を見たことがあります。それまでの自分の常識では、「サンタ=トナカイのソリ」だったので、驚きと共に、地球の大きさを改めて感じさせられたことを覚えています。ここ数日の気候の変化を見ると、日本という一つの国で今日はソリ、明日はサーフィンとサンタの乗物が目まぐるしく変わるように感じます。私たちのこれまでの常識であった「ホワイトクリスマス」は、近い将来に過去のものとなってしまわないかとさえ思っています。このような中でも、子どもたちは、日々の変化をそのまま受け入れ、それぞれに楽しみを探し出しながら、そしてクリスマスを待ち望みながらこども園での毎日をごしています。

今から2700年程前、イスラエルでは長引く戦乱の為に人々は疲弊し、苦難と闇、暗黒と苦悩、暗闇と追放といったものに覆われていました。そのような中で、預言者イザヤによって「ひとりの男の子」の誕生が人々に伝えられました。そして、それから700年余り後に、ナザレの地、ベツレヘムで飼い葉桶に寝かされた一人の男の子が生まれました。この男の子が救い主イエス様でした。預言者イザヤは、この男の子の名は「驚くべき指導者、力ある神永遠の父、平和の君」であると。イザヤ書9章4節には、「地を踏み鳴らした兵士の靴 血にまみれた軍服はことごとく 火に投げ込まれ、焼き尽くされた。」とあります。戦争の終わり、すなわち「平和」が強調されているのです。

2700年後の今、同じイスラエルの地で、幼い子供を含む多くの人々がイスラエルとハマスの戦闘により、家、家族、そして自らの命さえも奪われています。「何も悪いことしてないのにどうして?」といった声や「私たちにできることは苦しみの中で生きる術を身につけるだけ。」といった苦難と闇の声が聞こえてきます。そして、「子どもたちには人として生きる未来があって欲しい。それだけを願っている。」といった声も。今一度、世界中の人々と共に「ひとりの男の子が私たちに与えられた。」この本当の意味を見つめなおし、「子どもたちが人として生きる未来」を守るために私たちにできること、私たちがしなければならないことを探し、見つけ、実行していく歩みを広げていかなければならないと強く思います。

御子イエス様のお誕生をお祝いするクリスマスが近づいています。今年のクリスマスは、これまでにないほどの強い心をもって、神様の「愛」と「平和」一人でも多くの人びとと共に祈るときとなることを願っています。

| 12月  | 乳児 (0,1,2 歳児)   | 幼児 (3,4,5 歳児)   |
|------|---|---|
| 月主題  | うれしいね   | 喜び合う  |
| 月の願い | *アドヴェントカレンダーの飾りが、ひとつずつ増える様子を見ながら、友だちや保育者とクリスマスを迎える喜びを感じ、楽しみに過ごしたいと思います。 | *イエス様誕生の喜びを友だちや家族と一緒に感じ、楽しみに過ごす中で、周りの人の事を思い、自分にできることを考えながら過ごしてほしいと思います。 |
| 讃美歌  | 「おほしがひかる」 こども改77  | 「きよしこのよる」 こども改74  |